

一般質問通告書(平成 20 年 3 月定例会)

氏 名・答弁先・質問事項	質 問 要 旨
<p><b>1 2番 村上 和子</b>                      1 富良野広域連合設置における学校給食事務について                      (町 長)</p>	<p>富良野広域連合の処理する事務の中に、学校給食共同調理場の設置・運営及び管理並びに学校給食の配送に関する事務とあるが、当面の間は現在使用している上富良野町、富良野市、南富良野町の3つの給食センターをそのまま使用して、配送も自賄いで行うこととなっている。現在、上富良野町の学校給食センターは地場産品を80%利用し、冷凍食品をできるだけ少なくし、食材もその日に購入して手作りであるが、富良野地区学校給食センターは皮むきから切るまでを含め、食材で購入するなど手法も違っている。</p> <p>将来3つの施設が統合され共同調理となれば、同一メニューとなり一括購入で食材を安く求めることができるかもしれないが、今回、中国製冷凍食品の中毒事件があったが、富良野地区学校給食センターでは、冷凍食品「豚肉ピカタ」を使用していたこともあり、食材が多くなることで冷凍食品も以前より多く使わざるを得なくなると思われ、将来を担う子ども達の安心で安全な食が保たれるのか心配である。また、配送についても共同調理場が富良野市にということになれば、今までのような温かい給食は望めないのではないか。今後については外部委託が増え、人件費を節減しても手間賃プラス加工賃込みの値段で、経費的には変わらないのではと思われる。町にとっては食材を取り扱う商店・雇用・町内業者の利用も減り、経済活力を失うことにもなると考え、学校給食事務については、現在の上富良野町給食センターの施設を修繕しながら、少しでも長く利用できるようにしたほうがいいと考えるが。</p>
<p>2 精神障害者の就労支援について                      (町 長)</p>	<p>現在、精神障害者の地域活動拠点は富良野市になっているが、症状によっては1人では通所できないため、家族の送り迎えが必要な方もいる。自立支援医療の制度になってからは、施設使用の個人負担もかかり、ますます家の中に引きこもるようになり、家族の負担も大きいと聞いている。町内にあるNPO法人を支援して、障害のある方にも就労の場を提供してはどうかと考えるが。</p>
<p>3 高齢者向け配食サービスの料金の見直しを                      (町 長)</p>	<p>社会福祉協議会では、高齢者向けに配食サービスを実施しているが、このことにより、高齢者の安否が確認され、また栄養のバランスを保つという効果もある。しかし、現在個人負担が700円で、他町村と比べても高く、例えば旭川市では週6回で利用者負担400円、上川管内でも300円から350円の負担である。平成18年4月1日より配食サービス料金の見直しにより、デイサービスの食事と同額にするということで350円から700円にした経緯がある。これにより当初は20食あったが現在は1日に6食で1食の時もあり、高齢者は利用していないというのが実態である。料金の見直しを考える必要があるのではないか。また、事業そのものの見直しも必要ではないか。</p>
<p><b>2 10番 和田 昭彦</b>                      1 上富良野高等学校の存続について                      (町 長)</p>	<p>平成17年に町民待望の校舎等の全面改築がされ、生徒数の増加が大いに期待されたにもかかわらず、特例二間口すら維持できず、一間口になってしまいました。この主な原因は町内の中学校卒業生のうち、上富良野高等学校を受験した割合が平成16年度は29.7%、平成17年度が22%、平成18年度が14%、</p>

	<p>平成 19 年度(本年)は 11.8%と減少したほかにありません。この数字から想像すると町民の多くは必ずしも存続を望んでいないのではないかと思います。</p> <p>しかし、本当に大事なものは失ってみたいと分からないと言われるように、町内から全日制の高校が無くなることのマイナスの大きさを町民は認識していないと考える。町長がもし本気で存続を望んでいるのであれば、地元の中学生の少なくとも半分以上が通ってくれるような魅力ある高校づくりに本腰を入れて取り組むべきではないか。</p>
<p>2 過去に廃校になった学校を含め、校歌をCDに保存してはどうか。 (教育長)</p>	<p>昭和 37 年の旭野小学校の廃校に始まり平成 18 年の清富小学校の廃校に至るまで、45 年余りの間に、小学校 6 校、中学校 2 校が廃校になった。先日の上富良野高等学校の卒業式で山本校長は、式辞の中で「卒業生の皆さんにとって上富良野高等学校はふるさとです。いつでも訪ねて来てください」と述べていたが、そのふるさとが無くなってしまふほど寂しいことは無いと思う。そこで、現在ある学校を含め、せめて校歌をCDに録音し保存し、同窓の集いなどに利用してもらってはどうか。</p>
<p><b>3 5 番 米沢 義英</b></p>	<p>富良野広域連合実施に向けての規約が示されたが、次の項目について伺いたい。</p>
<p>1 広域連合について (町長)</p>	<p>1 共通経費の負担割合が示されたが、人口規模の小さな自治体ほど、1人あたりの負担額が高くなる傾向にあるが、見直すべきでは。</p> <p>2 関係者の十分な理解が得られていない中での学校給食の広域化は、見直すべきでは。また、地産地消や地元の経済的な波及効果の後退も心配されるが。</p>
<p>2 白銀荘の運営について(町長)</p>	<p>白銀荘は町民の保養センターの役割をも担っている。白銀荘を利用する高齢者には割引制度があるが、それ以外の一般客には割引制度がない。改善検討が必要と考えるが、対応について伺いたい。</p>
<p>3 保健福祉総合センターかみんの活用について (町長)</p>	<p>施設の管理上、大ホールなどについては飲食が制限されることがあるが、利用者からはもっと規制をゆるめてほしいとの声がある。また同時に、大ホールの利用の無いとき、住民の交流の場として活用できるようにしてほしいとの声があるが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>4 介護保険制度について(町長)</p>	<p>介護保険制度変更後、予防給付に重点が置かれたが、その影響で生活支援・家事援助の部分での時間数が短くなり、特に軽度の介護認定者には特別にそのしわ寄せが覆い被さるという事態になった。今後、町独自の支援制度を設けるべきだと考えるが、対応について伺いたい。</p>
<p>5 環境対策について (町長)</p>	<p>いま、地球規模での温暖化対策が求められている。それと並行して各自治体では取組みの強化を打ち出す自治体も出てきている。町においても、ごみの分別等がどのようなかたちで温暖化対策に貢献しているのか、例えば「何トンの二酸化炭素を削減できた」など、周知する手段を具体的に示すべきだと考えるがいかがか。</p> <p>また、町においては環境省が認めた環境認証「エコアクション 21」の取得を目指した取組みを、この機会に実施すべきだと考えるが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>6 特別支援の放課後対策について (教育長)</p>	<p>学校での特別支援対策は強化されつつあるが、学校解放後の児童の居場所が無いというのが現状である。今後の対応について伺いたい。</p>

<p><b>4 8番 岩崎 治男</b></p> <p>1 町立病院の運営について (町 長)</p>	<p>上富良野町立病院は、昭和33年9月に上富良野町立国民健康保険直営病院として、内科・外科・産婦人科の三科、病床数54床で開設され、昭和55年3月に、鉄筋コンクリート造り2階建て、一般病床80床の現病院が完成した。その後昭和55年4月に、救急告示病院認定を受け、地域病院としての機能を発揮している。</p> <p>平成19年度病院会計の収支は、有能な病院スタッフの経営改革推進により、最近にない良好な決算見込みと聞いています。そこで、町立病院の今後の経営将来像と高齢者や身障者に優しい病院づくりについて伺いたい。</p> <p><b>1 今後の経営の将来像として、診療科目の開設について</b></p> <p>現在、常勤医師三名が診療している「内科と外科」と、富良野協会病院との病病連携における医師派遣事業において、平成17年10月から「泌尿器科」、平成20年1月には「循環器科」を開設、合わせて4科の診療科目で診察している。このことは、特に冬場において、富良野協会病院へ通院することが困難な方に、身近な町立病院で受診できることから、大変好評と伺っている。</p> <p>今後も、病病連携を強化し、患者の健康維持と通院等の利便性を図るため、新しい診療科目の開設について考えを伺いたい。</p> <p><b>2 高齢者や身障者に優しい病院づくりについて</b></p> <p>身体が不自由な方や、在宅介護者で町立病院に通院されている方においては、町立病院の玄関に配置されている車椅子等を利用される方が多くなっており、また、体の麻痺等で杖をついての歩行を余儀なくされている方も多くなっている。しかし、町立病院には障害者や車椅子の利用者、またはオムツ替えベット等が整備されている、「多目的トイレ」が設置されていない。最近では、ご夫婦の老老介護における通院者の場合、ご夫婦で男子トイレを利用することにより、他の男の人が利用できない場合もあり、人間の尊厳と利用者のプライバシーの確保のためにも、「多目的トイレ」の設置が必要と考えるが、どのようにお考えか。</p>
<p>2 パークゴルフ場の運営について (教育長)</p>	<p>昭和61年に教育委員会職員の手作りで島津公園の一角に9ホールのパークゴルフ場が造成されたのが始まりで、その後18ホールに増設、上富良野町のパークゴルフの愛好者は年々増えてきた。</p> <p>また、東中会館前のパークゴルフ場は町民が気軽にプレーできる場所として、町内者はもとより、町外者にも利用がある。</p> <p>現在のパークゴルフ場は東に秀麗、十勝岳連峰の見渡せる最高の景勝地の日の出地区に、平成15年4月、3コース27ホールの上富良野町パークゴルフ場として新設オープンし、管理面においても最も優れたパークゴルフのコースとして愛好者に好評である。しかし、公認パークゴルフ場としての4コース36ホールはクリアされていない。上川管内の大会、全道大会等大きな大会を誘致し、大勢の人が集い利用いただくことが上富良野町パークゴルフ場の名声を高め、新設した価値観が高まると考え、第5次総合</p>

計画にパークゴルフ場1 コール9 ホールの増設を組み入れ、早急に完成させることが肝要と考える。  
 これまで施設と設備投資をしてきた、他に負けない上富良野町パークゴルフ場を維持し続けるため、将来像についてどのように考えていくのか伺いたい。

**5 9番 中村 有秀**  
 1 指定管理者による施設運営管理の評価について  
 (町 長)

町の公共施設が指定管理者制度の条例化によって、平成 18 年度より「パークゴルフ場」「日の出公園施設」「吹上温泉保養センター」が、平成 19 年度から「見晴台公園」等が指定管理者により施設運営管理が行われ、行財政効果があると承知している。各々の施設の契約期間があるが、契約期間中の単年度ごとの評価及び町民または利用者の声を反映させる方法がどのようにされているか、また、契約期間全般の評価方法について伺いたい。

2 持家者職員の住居手当について  
 (町 長)

持家者職員の住居手当は1 か月 7,000 円が取得時から退職時まで支給されているが、国家公務員は取得時から5年間のみ1 か月 2,500 円で、6年目以降は住居手当は支給されない。私は平成 12 年 3 月定例会で一般質問を行い、国家公務員との比較データを出して質するとともに、予算特別委員会・決算特別委員会等での質疑を通じて町財政が厳しい中での削減について強く求めてきた。  
 平成 16 年度上富良野町各会計決算特別委員会審査意見書(平成 17 年 10 月 7 日)では、「12. 職員手当について……持家手当と通勤手当について見直しを図られたい」とその是正、削減を求め、通勤手当は見直しされたが、持家者の住居手当はいまだ見直しがされていない。  
 中富良野町は平成 20 年 4 月 1 日から国家公務員に準じ、持家者になって5年間を1 か月 2,500 円に条例改正し、財政効果は年間約 480 万円と報道されている。  
 当町も行財政改革を進めるなかで、職員の持家者住居手当を国に準じた条例に改正することについて町長の決断を強く求める。上富良野町が実施すれば年約 569 万円の財政効果がある。  
 なお、国家公務員と町職員が仮に 35 歳で持家者になり、60 歳定年として試算は下記のとおりである。

	持家後の5年間	5年間の合計額	仮に35歳持家となって60歳定年
国家公務員	1 か月 2,500 円	150,000 円(2,500 円×12月×5年)	150,000 円(2,500 円×12月×5年)
町 職 員	1 か月 7,000 円	420,000 円(7,000 円×12月×5年)	2,100,000 円(7,000 円×12月×25年)
上記の差	1 か月 4,500 円	270,000 円	1,950,000 円

3 上富良野町パークゴルフ場の開設期間について  
 (教育長)

上富良野町パークゴルフ場の設置及び管理に関する条例第 8 条によって、開設期間が「4 月 29 日から 11 月 3 日」と定められているが、そのことが民間の指定管理者としての営業努力の阻害要素になっている。3 年間の契約期間が切れる平成 21 年 3 月末前に民間活力が発揮される考えで条例改正への考え方について伺いたい。

4 上富良野町図書館の運営について  
 (教育長)

平成 17 年度に公民館改修によって図書室から図書館となり、広くゆとりのある図書架と閲覧室により、利用者増と併せて図書館に関連する諸行事が開催され、関係職員の努力は大きいものがある。図書館の運営について下記各項について伺いたい。

	<p>1 収蔵庫があり貴重な図書が収蔵されているが、収蔵図書のリスト一覧を公開し、閲覧に供する考えは。</p> <p>2 廃棄図書の処分基準と処分決定権限はどこか。</p> <p>3 図書・資料の寄贈の取扱方法は。</p> <p>4 廃棄決定図書の処分方法及び書籍本体の処理方法は。</p>
<p><b>6 6番 今村 辰義</b></p> <p>1 平成 19 年度十勝岳噴火総合防災訓練の成果について (町 長)</p>	<p>先日実施された平成 19 年度十勝岳噴火総合防災訓練は、「大正泥流」と呼ばれた雪解け水を伴った泥流で 1 4 4 名が犠牲となった大正 1 5 年の噴火規模を想定していると伺っており、上富良野町・美瑛町の両町を始め、陸上自衛隊や消防、道警、道など 4 8 機関が参加し、救助訓練や避難訓練が行われた。我が町では、泥流の流れる可能性のある地区を対象に避難訓練も行われ、約 2 0 0 名の住民が参加し、8 か所の避難所に避難し、町民の安心・安全の向上にも大いに成果があったと考える。そこで、平成 1 9 年度十勝岳噴火総合防災訓練における、訓練成果及びそれを反映した、次年度以降の本訓練の取り組み方(訓練形態)について伺いたい。</p>
<p>2 上富良野町地域防災計画の整備状況について (町 長)</p>	<p>十勝岳噴火総合防災訓練の根拠でもある「上富良野町地域防災計画」総論第 2 章第 6 節第 1 項「住民への応援要請」中「・・・住民組織の協力を要請・・・」とあるが、住民組織とは具体的にどのような組織なのか、そして、この自主防災組織づくりの進捗状況について伺いたい。</p> <p>また、火山災害対策編第 2 章第 4 節「防災体制の強化」の整備状況について伺いたい。あわせて、上富良野町国民保護計画が平成 1 8 年 1 2 月 1 日策定され、平成 1 9 年 4 月 1 日に一部変更し現在に至っているが、この上富良野町国民保護計画について、今後、どのように取り組みを進めていくのか伺いたい。</p>
<p><b>7 4番 谷 忠</b></p> <p>1 第 6 次農業振興計画策定の基本姿勢について (町 長)</p>	<p>平成 20 年度は第 5 次農業振興計画最終の年であり、総括する年でもある。課題と反省する点があれば伺いたい。</p> <p>第 6 次の計画に向けても、農協と策定年度が同じであり、連携のもと進められると思うが、農家に対する「やる気の動機付け」が必要と思われる。町は本計画の策定にあたってどのような基本姿勢で臨もうとしているのか伺いたい。</p> <p>計画を作成するにあたり、きめ細やかな営農基本条例の制定の考えは。さらに、年次別財源を投資額として明示する考えはあるか。</p> <p>また、遊休農地の面積と実態、農畜産物の総生産額、農業後継者の人数と実態についても伺いたい。</p>
<p>2 町立病院の看護師確保の充実を (町 長)</p>	<p>診療報酬の改定で、平成 23 年度末までに介護療養病床の廃止が決定され、平成 20 年度中に医療併設の小規模老健施設への転換が示されているが、どのような形で運営されようとも、公立病院として町民に安心して医療を提供することが、最大の行政サービスと考える。</p> <p>町立病院のポイントである医師の確保については、旭川医大と有効な関係にあり今後も関係の悪化は無いものと考えている。</p>

	<p>病院運営について課題は多くあると思うが、問題は看護師の確保と考えるが。修学資金貸付条例などを設け対応しているが、見直しの考えは。また、環境づくりが重要と考えられるが、子どもの保育体制が考えられないか。現在の看護師の総数と併せて伺いたい。</p>
<p><b>8 1番 向山 富夫</b> 1 広域連合とまちづくりについて (町長)</p>	<p>広域連合体制を進める中であって、上富良野町の目指す自主自立をどのように構築していくのか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行政効果の見通しは。</li> <li>2 当町の住民サービスにおいて、どのような面で向上が期待できるのか。</li> <li>3 広域連合構成市町村間において、将来目標について明確な基本認識が確認されているのか。また、認識に差異は無いのか。</li> <li>4 今後の地方分権の受け皿として、広域連合と当町との位置付けはどのようになるのか。</li> </ol>
<p>2 行財政改革と町の活性化について (町長)</p>	<p>町の財政健全化と安定化を図ろうとしている反面、町の活力も次第に失われており、財政縮小均衡と活性化をどのように両立させていくのか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 町内で循環する総資金が縮小していないか。</li> <li>2 少子高齢化が進む中、全町的に業態の垣根を越えて相乗効果を生む体制整備の充実と、町の支援策を見直すべきではないか。</li> <li>3 行政がこれらのコーディネートをするため先駆的に行動し、事業者にアドバイスや支援ができる体制が必要と考えるが。</li> </ol>